

消防防災分野における国際交流

参事官

① 集団研修の実施

消防庁では独立行政法人国際協力機構（JICA）と連携・協力し、開発途上諸国に対する技術協力の一環として、東京消防庁、大阪市消防局及び北九州市消防局の協力のもと、指導者としての知識・技術を移転することを目的に集団研修を実施しています。

今年度は火災予防技術コースに7カ国7名、救急救助



救急救助技術コース総合訓練

技術コースに9カ国10名、消火技術コースに9カ国10名の研修生を受入れ実施しました。

気候、習慣の異なる中で約2カ月間に及ぶ研修を修了した研修生は、習得した知識・技術を活用して自国の消防行政の発展に寄与することを誓い、帰国の途に就きました。



消火技術コース総合訓練

② 中華人民共和国国務院職員による防災体制研修

中華人民共和国の王守興副主任（国務院緊急対応管理辦（べん）公室）を代表とする国務院職員等11名は、10月22日から28日までの間、日本の防災体制の研修を目的として来日しました。

23日には消防庁へ表敬訪問し、当庁の消防防災・危機

管理センターの運営システムの視察や、地域住民、消防職員等がインターネットを活用して学習する「防災・危機管理e-カレッジ」の紹介、及び自主防災組織の概要等の説明を受けました。

③ トルコ共和国内務省事務次官が消防庁を表敬訪問

トルコ共和国内務省事務次官サハベッティン・ハルプトゥ氏とイスタンブール県知事モアメル・グレル氏の両名は、11月5日から11日までの間、わが国の防災行政の経験や課題についての理解を深めるため来日しました。

6日には消防庁長官を表敬訪問し、消防庁の幹部職員と意見交換を行い、交流を深めるとともに、「災害発生時における消防庁の役割」等の説明を受け、活発な議論が行われました。